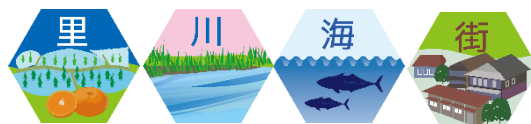


# 十字地区



## 【地区の自然環境概要】

十字地区は、里、川、海及び街の要素を持つ地区です。

国道 135 号から西部にかけては、社寺林などの緑地が点在します。標高は北西に向けて徐々に高くなり、市街地から山地に遷移する丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部は主に住宅地が広がっています。桜並木で市民によく知られる「西海子小路」には、「小田原文学館」等、明治から昭和の初期にかけて愛された歴史的建造物が残っており、住宅地の中でも緑の多い地域です。この地域は、市街地や住宅地を好む動植物の生育・生息の場となっています。

南西側は早川に接しています。また、東南側で 0.8km にわたり相模湾に面している海岸は、半自然の砂浜海岸が残っており、海浜を好む動植物の生育・生息の場となっています。また、広大な海は魚類等の動植物の生育・生息の場となっています。



## 【地区で見られる動植物】

市街地を主体としながらも社寺林や邸園などの緑地が点在し、動植物の大切な生育・生息の場になっています。「御幸の浜」海岸は砂浜を利用する動植物の生育・生息の場でもあり、大切に守っていききたい環境です。

- 主に西部では社寺林を中心に大木も残存し、ハクビシン等の哺乳類、アオゲラやイワツバメ、ホオジロ等の鳥類、クマゼミやヒグラシ等の昆虫類などが見られ、樹林から緑の多い住宅地を特徴づける種が確認されています。<sup>1</sup>
- 「小田原文学館（田中光顕別邸）」周辺は、イチヨウやイヌマキなどの植栽林が広がり、イヌタデやヘビイチゴ、ヤハズソウ等の植物、キジバトやヒヨドリ等の鳥類、クマゼミやアゲハ等の昆虫類、ニホンヤモリ<sup>2</sup>やアオダイショウ等の爬虫類などが見られ、緑の多い住宅地を特徴づける種が生育・生息しています。<sup>3</sup>
- 「御幸の浜」海岸にはハマダイコンやハマヒルガオ等の海浜植物が生育できる砂浜が残っており、市の鳥であるコアジサシ（絶滅危惧種）やウミネコ、ハマバハサミムシ等の昆虫類などが見られ、河口や海岸を特徴づける種が生息しています。<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 参考：平成 29 年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

<sup>2</sup> 参考：平成 30 年（2018 年）～平成 31 年（2019 年）に実施した現地調査結果

<sup>3</sup> 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果

<sup>4</sup> 参考：平成 29 年（2017 年）～令和元年（2019 年）に実施したヒアリング調査結果



ハクビシン

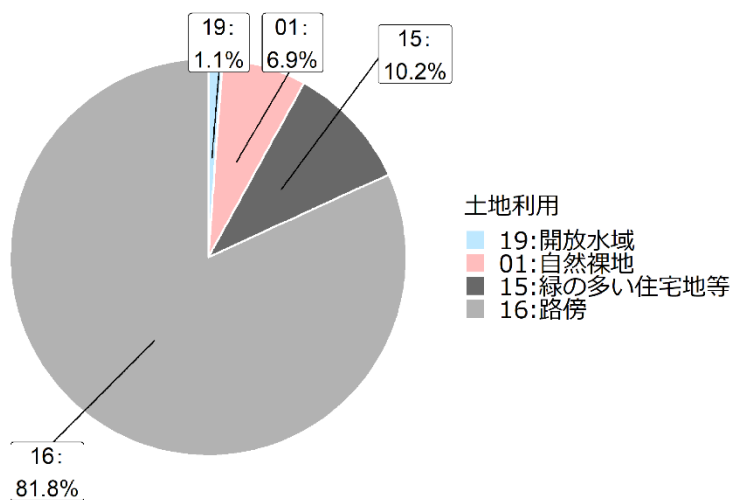


イワツバメ

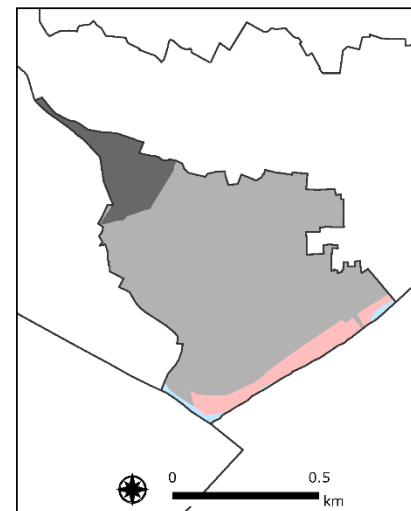


ホオジロ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、路傍及び緑の多い住宅地等が約 9 割を占めますが、東南側で相模湾に面する海岸部は自然裸地が広がっています。<sup>5</sup>



十字地区の土地利用割合



十字地区の土地利用

### 【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、防災など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

#### ～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「御幸の浜」海岸は、景色が良く、伊豆半島や三浦・房総半島も見渡せ、海辺の散策などが楽しめます。夏には海水浴も楽しめ、元旦（1月1日）には、初日の出にあわせて元旦初泳ぎも行われていました。<sup>6</sup>また、釣り場としても利用され、レクリエーションの場として活用されています。一方で、海岸侵食や砂浜の減少による美しい海岸線の保全が課題となっています。<sup>7</sup>
- **自然観賞の場**：明治から昭和の初期には別荘地として、文豪、政治家、経済人、皇室関係者に愛された地域です。「西海子小路」は武家屋敷が集まっていた静かなたたずまいの小路であり、春には満開の桜を楽しむことができます。この小路には、美しい邸園を持つ「小田原文学館（田中光顕別邸）」や「旧松本剛吉別邸」があります。

<sup>5</sup> 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

<sup>6</sup> 出典：小田原市 HP 観光スポット <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/spot/>

<sup>7</sup> 出典：小田原市環境基本計画-改訂版-（小田原市環境部環境政策課，平成 29 年（2017 年））

◆「小田原文学館（田中光顯別邸）」

小田原は、温暖な気候ゆえに、明治期以降は多くの政財界人や文学者が居住しました。文学者では、北原白秋や坂口安吾など十数名にのぼります。<sup>8</sup>田中光顯は坂本龍馬の同志であり、明治期は宮内大臣など要職を歴任しました。その田中の晩年の別邸がここ。梅・桜・楓の美しい庭とあわせ、邸園の魅力の粋が集まっています。<sup>9</sup>

◆「旧松本剛吉別邸」

敷地は、もとは明治の元勲 山縣有朋と親交の深かった松本剛吉（貴族院議員等を歴任）の所有でした。その後、東京府農工銀行頭取であった鈴木茂平、昭和 17 年（1942 年）に東京日本橋富沢町で木綿卸商「岡正」を営んでいた岡田正吉へと移り、平成 31 年（2019 年）2 月に公有化され、現在に至っています。約 2,500 平方メートルほどの庭園のなかに主屋と別棟の茶室「雨香亭（うこうてい）」があり、庭園を見下ろす小高い丘には待合が配置されています。公開している茶室は、六畳の広間と五畳の小間からなり、間に設けられた玄関を中心に左右に角度をつけた特徴的な意匠をもっています。広大な庭園内には池や水路が備えられており、山縣有朋ゆかりの古稀庵に通じる特徴があるとされています。<sup>10</sup>

- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。「居神神社」では、漁業と関わりが深い例大祭が行われ、古くから生活の営みの心の支えとなるなど自然と深いつながりがあります。

◆「居神神社」

居神神社は、小田原北條氏に倒された相模三浦氏の最後の当主である、三浦荒次郎義意公を主祭神として祀っています。居神神社は、松原神社、大稲荷神社と並び小田原城下の三大明神と呼ばれ、5 月に例大祭が行われます。神輿渡御の特徴的なものとして、「小田原担ぎ」という漁師の祭りを原型としていた神社の担ぎ方で、神輿の動きは漁船の動く様と同じと言われ、交互に掛け合う掛け声と木遣り（きやり）は、漁で網を引き上げる際の様子とその原型とされています。神輿が氏子町内の商店や祭礼事務所などに突っ込む際、静止している神輿に木遣りをかけ、担ぎ手は民家や商店などの軒先めがけて勢いよく突っ込み、ぎりぎりのところでピタリと止める。その見事な様は、波に乗って現れると考えられている神の霊力をそこへ注ぎ、商売繁盛などを願ったもので、祭礼の際には氏子町内の各所で見ることができます。<sup>11</sup>

～生活環境とのつながり～

- **防災・減災**：相模湾に面する西湘バイパス沿いには松並木が残っています。海岸線沿いの松並木は、海岸沿いの街並みを作るとともに、一般的に防砂・防潮の役割を持つと言われています。

【地区で見られる特徴的な自然】

巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：「報身寺」「光円寺」「居神神社」に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査<sup>12</sup>で、保全すべき巨樹に選定されています。

<sup>8</sup> 出典：小田原市 HP 図書館・博物館・文化施設 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-i/facilities/>

<sup>9</sup> 出典：小田原邸園スタンプラリー台紙

<sup>10</sup> 出典：小田原市 HP 文化事業 <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/culture/event/p20642.html>

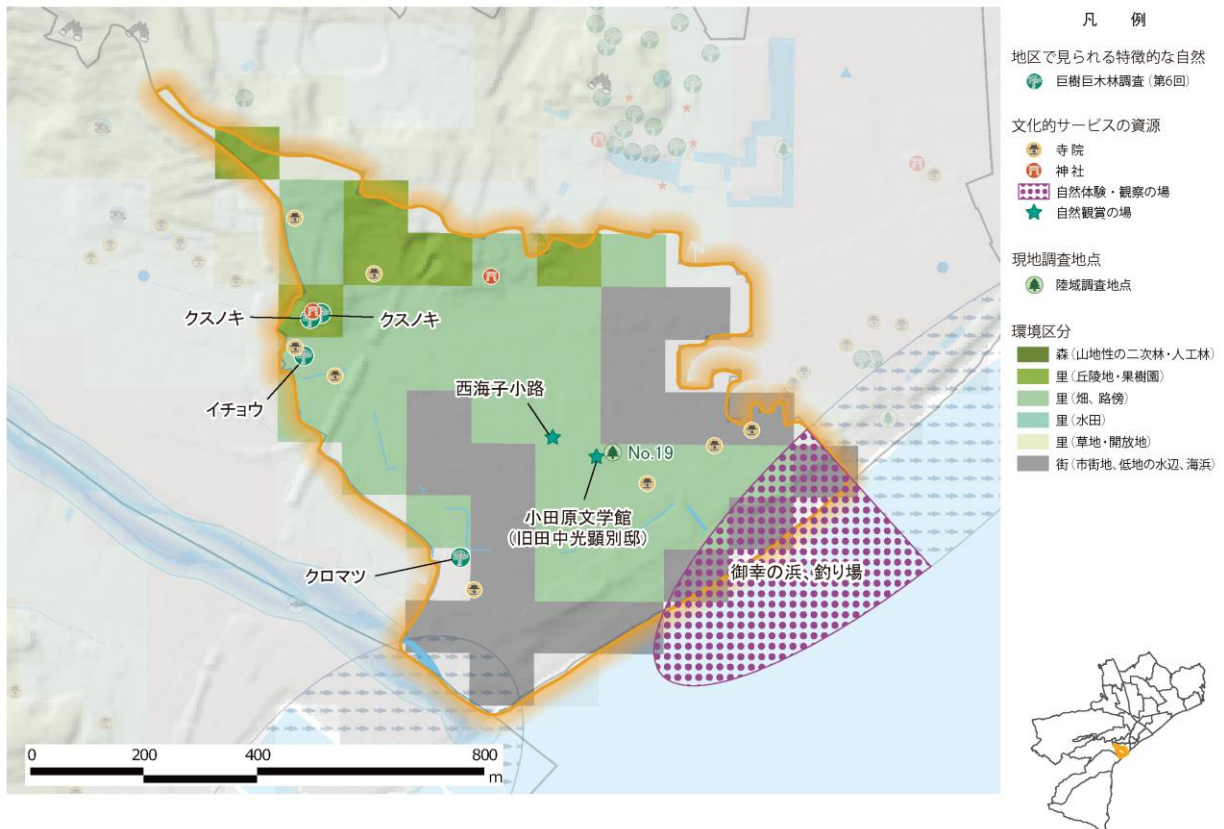
<sup>11</sup> 出典：小田原市歴史的風致維持向上計画（小田原市、平成 29 年（2017 年））を参考に作成

<sup>12</sup> 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査

### 巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
報身寺	クロマツ	13	370	-
光円寺	イチョウ	40	540	平成12年(2000年)
居神神社	クスノキ	16	355	平成12年(2000年)
	クスノキ	18	350	平成12年(2000年)

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書（環境省自然環境局生物多様性センター,平成13年(2001年)）



十字地区の自然環境マップ